



# 児童労働の現実



国際労働機関

子どもたちは、さまざまところで働かされています。

## 農業

子どもたちは、コーヒー、茶、綿、カカオ、砂糖きびなどの大規模農園(プランテーション)で働いています。小さな農場でも働かされています。厳しい気象条件の下、長時間のきつい作業や、殺虫剤・除草剤の使用で病気になったり、カマや危険な機械を使ってケガをする子どももいます。



タバコの葉を乾かす準備をする少女

## 製造業

マッチ、花火、チョーク、カーペットなどを作っている子どもたちは、材料の爆発や道具によってケガをしたり、体に悪い影響を与える細かいチリを吸い込んで病気になったりします。物作りでは、器用で小さな子どもの手が役立つと思われることも、働かされる原因の1つです。子どもたちや若者が多く使っているボールや靴などの製造現場でも、子どもたちが働いています。



マッチ作り

## 債務奴隷

親とともに借金を背負い、奴隷のように強制的に働かされる子どももいます。数十年にわたって働くという契約をさせられる場合も少なくありません。食事や睡眠時間も満足に与えられずに一日中働かされたり、暴力をふるわれることもしばしばです。



畑で働かされる少年たち

## 人身取引



買春される子ども

子どもたちの中には、住みなれた土地から離れた場所へ連れて行かれ、無理やり働かされる子どももいます。売られた子どもたちは、大きな農園で働かされたり、建設現場や鉱山、物乞い、さらにはセックス産業で働かされることもあるのです。

## Q.なぜ「児童労働」があるのですか？

一番の原因は**「貧困」**です。(1日1米ドル未満で暮らす人は10億人)

しかし、その他にも…

- 子どもの教育へのアクセスがない
  - 親の教育の欠如
  - 子どもの地位が低い価値観や社会慣行
  - 地域社会の労働慣行
  - 地方から都市への移住
  - 紛争・災害などによる社会の混乱
  - 家庭の問題
  - 不適切な法律の施行
- などが挙げられます。



児童労働反対世界デー  
6月12日

「児童労働をなくすことを世界に呼びかける日」として、2002年に定められました。世界中で、さまざまなイベントを通して、たくさんの方がこの問題について考え、取り組み、行動を起こしています。子ども時代を表す風車は、ILOが定めた児童労働反対世界デーのシンボルマークです。

## IPEC (児童労働撤廃国際計画)の取り組み例

### サッカーボールを縫う子ども

世界のサッカーボールの約75%はパキスタンのシアルコット地区で生産されています。1996年にIPECが行った現地調査によれば、およそ7000人の子どもたちが、ほとんど学校にも行かずにボールを縫っていました。IPECは現地の商工会議所などと協力し、子どもたちが学校に戻るよう支援し、再び就労しないための監視制度やコミュニティ単位の作業場を作り、村落教育行動センターを通じてノンフォーマル教育を提供するなどして、児童労働を撤廃することに成功しました。



### チョコレートの向こう側

チョコレートの主原料であるカカオの農場で、25万人をこえる西アフリカの子どもたちが働いていました。2000年にこの事実が明らかになると、チョコレート・ココア業界の企業、労働組合、消費者団体、NGOは、カカオ栽培における最悪の形態の児童労働と強制労働をなくすことを目的とする協定を締結し、その実現のために「国際ココア・イニシアティブ」基金が設立されました。IPECも協力して「責任あるカカオ栽培」をめざすプログラムが開始され、子どもたちを農場から学校に戻し、親に就労機会を与える活動を展開しています。



## IPECの成果

IPECの活動によって児童労働から解放された子どもたちは、リハビリテーションを受けて心身の傷を癒します。そして、予防活動を通して児童労働に陥ることを免れた子どもたちとともに、学校に通って勉強に励んでいます。このように、IPECの利益を直接もしくは間接的に受けた子どもたちの総数は、これまでに約500万人にのぼっています。

## 児童労働はなくせます。

児童労働撤廃のコストは、途上国の軍事費の約2割です

### ジャーゴル

僕は働くのは嫌いだった。でも暮らしが貧しかったし、服もぼろぼろだったから仕方なかった。働いていたときは、食べ物ほとんどないし、あつてもまずくて、ゆっくり食事もできない。一日中、石を砕いたり金をすくったり。遊ぶ時間なんか全然なくて、今日は金が見つかるかな、と心配ばかりしていた。心配しすぎていつも頭が痛かったくらいなもの。ずっとお金持ちになって自由になりたいと思っていた。今は学校に行って、友達と勉強したり遊んだりすることができる。将来は国や世界のために役立つ、頭のいい人になりたいな。



### シルワ

私は11歳の時、よその家で働き始めました。朝5時に起きて掃除、食器洗い、洗濯、畑仕事、夕飯の準備、後片付け、家族のお使いを息のつく間もなくこなして、夜9時にやっと仕事が終わります。ご主人の家族は水一杯ですら自分で持ってきませんが、前の主人のように私を叩くことはありません。今までに稼いだお金は、育ててくれたお礼に叔母さんに送ってききましたが、これからは自分で貯めて、読み書きや計算などの勉強をするつもりです。新しいことを学んで、自分自身の将来のために、違う暮らし、もっと良い暮らしをしたいと思っています。



ILOは、すべての人にディーセント・ワーク(人間らしい適切な仕事)を実現するよう、政府・使用者・労働者の代表が話し合っ国際的なルールを作り、推進しています。また、雇用創出、職業訓練、社会保護、社会対話などを通じて開発支援を行っています。ILOは、国連の専門機関です。

発行：ILO駐日事務所

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-70  
UNハウス8階

<http://www.ilo.org/tokyo>

(右上のJapaneseをクリックすると日本語ページが表示されます)